

## 6. 神経系の疾患（アルツハイマー病を含む）

### 文献

福田晋平、江川雅人、苗村健治. パーキンソン病に対する鍼治療の臨床効果に関する研究 ランダム化比較試験(RCT)による検討. *明治国際医療大学誌* 2012; 6: 21-45. 医中誌 Web ID: 2013030775

### 1. 目的

パーキンソン病に対する鍼治療の有効性評価

### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

### 3. セッティング

明治国際医療大学附属京都駅前鍼灸センター、明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都、日本

### 4. 参加者

標準的な抗パーキンソン病薬の投与を受けているパーキンソン病患者 28 名。

### 5. 介入

Arm 1: 標準鍼治療群 13 名 (男性 6 名、女性 7 名、平均年齢 68.0±9.9 歳)。鍼治療の治療頻度週 1 回を 12 週、3 か月間に合計 12 回行った。曲池 (LI-11)、合谷 (LI-4)、足三里 (ST-36)、太衝 (LV-3)、肝兪 (BL-18)、腎兪 (BL-23)を基本経穴とした。随伴症状、便秘、精神症状に対しては他の経穴を加えた。ステンレス製ディスプレイ鍼 (0.16-0.18×40mm、セイリン社製)を用い、基本的な鍼治療方法は、鍼を約 1cm 刺入した後、鍼響後 10 分間の置鍼術とした。

Arm 2: 低頻度鍼治療群 13 名 (男性 7 名、女性 6 名、平均年齢 72.8±6.8 歳) 脱落 2 名。月 1 回を 3 か月、3 か月間に合計 12 回行った。治療方法は Arm 1 と同様。

### 6. 主なアウトカム評価項目

統合パーキンソン病評価尺度 (UPDRS)総合点・Part I (精神症状)・Part II (日常生活動作)・Part III (運動症状)、歩行バランス能力 (TUG)、姿勢保持能力(FRT)など。

### 7. 主な結果

群間比較は有意差がみられなかった。前後比較では、UPDRS では、総合点は両群ともに有意な改善が認められた (標準鍼治療群  $P<0.01$ 、低頻度鍼治療群  $P<0.01$ )。項目別でみると、標準鍼治療群では精神症状 ( $P<0.05$ )、日常生活動作 ( $P<0.05$ )の有意な改善が認められ、低頻度鍼治療群では運動症状の有意な改善が認められた ( $P<0.05$ )。TUG 自由歩行速度は両群ともに有意な改善が認められた (標準鍼治療群 ( $P<0.05$ )、低頻度鍼治療群 ( $P<0.05$ ))。FRT では、標準鍼治療群のみ有意な改善が認められた ( $P<0.05$ )。

### 8. 結論

鍼治療はパーキンソン病の改善に対して有効である。

### 9. 鍼灸医学的言及

鍼治療による局所血流改善、筋緊張緩和、下行性抑制などについて言及している。

### 10. 論文中の安全性評価

記載なし。

### 11. Abstractor のコメント

多くの評価尺度を用いて多角的に解析し、鍼の治療頻度の違いによるパーキンソン病への効果を比較した、貴重な研究成果である。しかし、多岐にわたる指標を用いたことにより、冗長でわかりにくい印象になったことは否めない。パイロットスタディにより指標を絞っていけば、さらに整理できていたと思われる。今後は症例数を増やし、さらなる成果を発信することで、鍼のエビデンスを高めることが期待される。

### 12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19